人が人を育てるコミュニティへ

前橋地域づくり連絡会・委員長

鈴木　正知さん　46歳
朝倉町四丁目

地域同士の連携を深めることにより、地域づくりの一層の充実を図る活動をしている鈴木さん。6月26日、総合福祉会館で開催される「地域づくり交流フェスタ2011」の企画・運営を行う前橋地域づくり連絡会の委員長を務める。

「自分の住む町を良くしたいという意識が高い人は多い。こういった思いを、地域を超えて引き合わせることで、より大きな広がりが生まれるのではないでしょうか」

地域づくり活動のほか、子どもたちの育成にも熱心に取り組む。10年前から地元の小学校で生き物を使った環境教育を行うなど、子どもたちが直接自然に触れる機会を大切にしている。

「『最近の子どもたちは』といわれますが、わたしたちが小さいころと少しも変わりません。自分のアイデアを生かす機会が少ないだけなんです」

生き物の行動を手本にして、よく考えて工夫することの大切さを教えている。

「子どもたちがアイデアを生かし将来地元で新たな仕事を生み、それが次の世代の子どもが育つきっかけとなる。人が人を育て、人も循環するコミュニティを目に見える形にすること。これが今すべき地域づくりの形の一つだと思います」

鈴木さんの取り組みが、多くの子どもたちにとって、将来地域づくりの担い手となるきっかけになってほしい。

前橋ウォーカー

緑あふれる田園地帯を散策

下川淵地区

のどかな田園が広がる緑豊かな下川淵地区。地元の人々に愛される名所を、歩いて巡ってみました。

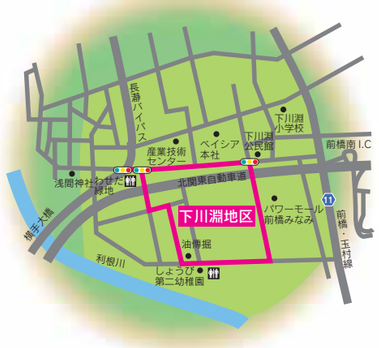
スタート地点は、横手町の「横手わせだ緑地」。ここには、住民の手で作られた美しい花壇があり、色とりどりの花々を楽しむことができます。また、さまざまな遊具も設置され、子どもたちに大人気。花と緑と笑顔があふれる緑地です。

北関東自動車道の下をくぐると、トンネル一面の色鮮やかな壁画が出迎えます。これは、北関東自動車道の開通を記念し、下川淵小の児童と七中の美術部員が描いたもの。トンネルいっぱいに大きく描かれた壁画は、下川淵地区のシンボルです。

トンネルを抜けると、利根川に注ぐ「油堀（ゆぼり）」が見えてきます。ここは地元で有名な花見スポット。両岸にサクラ並木が続き、春には辺り一面がピンク色に染まります。今の時季も、川のせせらぎを聞きながらのんびり歩くのにぴったりです。

ショッピングセンターを過ぎて下川淵公民館前まで進むと、道路沿いに「ユリノキ」が並びます。ユリノキは別名チューリップツリーとも言われ、毎年6月ごろになると、その名の通りチューリップのような形のかわいい花を咲かせます。大きな葉に隠れた薄緑色の花を見つけると、幸せな気持ちに。

さわやかな初夏、皆さんも下川淵地区の散策をしてみませんか。



ユリノキ

クローズアップ

一服のお茶でおもてなし

５月８日、臨江閣で第34回市民芸術文化祭「大茶会」が開催されました。茶室をはじめ、館内や庭園などに設けられた茶席は、大勢の和服姿の人たちで大盛会。訪れた人たちは、各流派それぞれのお茶を満喫。落ち着いた雰囲気の中、楽しいひとときを過ごしました。

心が躍る色とりどりのバラ

敷島公園ばら園が春の見ごろを迎え、子どもからお年寄りまで多くの来園者の心を和ませています。園内の約600種のバラには、それぞれ独自の色と香りがあります。特に、まえばしのバラ「あかぎの輝き」は人気で、ばらガイドの解説に熱心に聞き入る人が大勢いました。

郷土が生んだ詩人をしのぶ

５月８日、前橋文学館で第39回朔太郎忌が開催されました。開会式では、朔太郎の孫の萩原朔美さんがあいさつ。その後、朔太郎の詩の朗読や合唱に続き、萩原朔太郎研究会事務局長として、長年同研究会を支え、昨年３月に急逝した野口武久さんを追悼しました。

美しい音楽が流れるまち

５月７日、中心市街地で風のまち音楽祭プレイベントを開催しました。11団体が演奏するジャズに足を止めて聴き入ったという人や、イベントを楽しみに来たという人で会場はいっぱいに。まちなかに流れる心地よい音色に、大勢の観客から温かい拍手が送られました。